



ユニシス研究会



ユニシス研究会は、会員のみなさまが運営するユーザ会です。親睦はもとより、企業や業界の枠を越えた情報交換や相互交流により、会員のみなさまが抱えている課題の解決を図ることを目的としています。

ユニシス研究会の概要

ユニシス研究会は、1953年、日本ユニシスの前身である吉沢会計機のパンチカードシステムのお客さま30社が、事務業務の機械化を推進するための情報交換を目的として発足したユーザ会で、日本でもっとも歴史のあるユーザ会となっています。現在の会員数は約700社で、さまざまな活動を行っています。

経営課題やビジネス課題、IT活用などのテーマで、企業の経営層から担当者まで、幅広い層を対象としたグループ研究を実施しています。また、会員のみなさまから新ビジネス開発、IT活用、業務改善などについての論文も募集しています。

会員のみなさまが参加される全国カンファレンスでは、研究活動の成果や優秀論文の発表とともに、優秀な活動に贈られるエックカート賞の表彰式や、会員相互の情報交換会が行われ、ここで入賞した論文や研究活動の成果は、会員専用のWebサイトで公開しています。

また、毎年秋に各支部主催で開催される全国フォーラムでは、記念講演のほか、開催地に関連した話題をテーマとする講演も行われています。このほか、全国の9支部が主催する研究活動やフォーラム、セミナーなどの支部活動は、みなさまの交流の場としてご活用いただいています。

2006年度グループ研究テーマ(合計28テーマ) 参加者数165名

活動対象	実施テーマ
ビジネス・コミュニティ (CIO・部長クラス)	<ul style="list-style-type: none"> ●企業における内部統制と日本版企業改革法対応
マネジメント・コミュニティ (課長クラス)	<ul style="list-style-type: none"> ●災害復旧と事業継続計画策定 ●日本版企業改革法とITツールの活用 ●情報セキュリティ強化のための人材育成プログラム ●ITIL適用によるITサービス管理の構築方法
グループ研究 (担当者クラス)	<ul style="list-style-type: none"> ●サービスは誰のもの～SOA推進のための組織～ ●プロジェクトマネジメント、他(21テーマ)

お客さまの声(抜粋)

- 研究活動の発表会は、プレゼンテーションを習得する場として非常に有効だった。
- グループ研究への参加により、異業種間の交流はもとより、異なる視点での考え方や課題があることが分かり、職場での改善につなげることができた。
- ITや企業経営に限らず、興味をそそるテーマ、ユニークなセミナーなどを企画することで、幅広い参加者層を確保することができ、研究会もさらに活性化するのではないか。



全国フォーラム(2006年10月 札幌で開催)



研究活動報告会(2007年3月 東京で開催)

会員のみなさまとのコミュニケーション・ツール

ユニシス研究会のWebサイトでは、研究活動のご紹介や各種セミナーのご案内、過去の研究活動報告、入選論文などを閲覧していただくことができます。

会員のみなさま向けの機関誌「こらぼれ～しょん」も年4回発行し、研究活動の報告、セミナーの講演録、企業訪問結果などを掲載しています。

 ユニシス研究会 <http://www.yuni-ken.gr.jp/>



ユニシス研究会Webサイト



機関誌「こらぼれ～しょん」

会員様からのメッセージ



——ここでは、2006年度の研究活動において最優秀賞を受賞された関東13グループのリーダーである白澤様に1年間の研究活動を振り返っていただきました。——

このたびは、最優秀賞という栄えある賞をいただき、誠にありがとうございました。今回の研究テーマとして取り上げた「アーンドバリュー・マネジメント (EVM: Earned Value Management※)」は、プロジェクトマネジメントにおける代表的なツールであるものの、いまだに日本の事業現場では活用度が低いと感じています。今回の研究成果としてまとめた導入手順が、経験の浅いプロジェクトマネージャにとって、今後のEVMの導入を検討する際のきっかけになれば、と期待しています。また、今回の活動に参加したメンバーは、初めこそごちなさはありましたが、約1年間の活動を通して、研究内容だけにとどまらず、さまざまなことを語り合える

仲間になりました。研究活動は終わりましたが、メンバー間の交流は今後も続けていきたいと考えています。最後になりましたが、このような機会を与えてくださったユニシス研究会と、テクニカル・アドバイザーの阿保さんに、深く感謝を申し上げます。



最優秀賞受賞 関東13グループ
株式会社DNP情報システム
白澤 真奈美様

※アーンドバリュー・マネジメント:

EVM (Earned Value Management)

プロジェクトの進捗状況や達成状況を金額として表したものをアーンドバリューと呼び、これを用いてプロジェクトの状況(スケジュールやコスト)を分析・評価するための手法。とくに米国において公共調達の管理手法として利用されている

COMMENT テクニカル・アドバイザーから

「相談役」として研究活動を支援

テクニカル・アドバイザーは、リーダーやメンバーが迷った時に頼りになる「相談役」でなくてはなりません。そのため、私はチーム内の意見が発散しすぎないように、また特定の会員に負荷が集中しないようにグループの活動をサポートすること、そして、会員の方々にとって、遠慮のいらぬ「仲間」として接していただけるよう心がけてきました。

同時に、ユニシス研究会は、テーマや立場を超えて多くのことを学ばせていただける場として、私にとって「お客さまのためを考える、一緒に解決していく」姿勢を培ううえでも得がたい機会でした。参加された会員の方々からも異口同音に「参加して以前よりも視野が広がった」との感想をいただき、感謝を申し上げ、同時に「相談役」として嬉しい限りです。

日本ユニシスグループはシステム開発を通じて、さまざまな業種や業態のお客さまのお手伝いをしています。今後も、多くの社員がこのような機会を通じて、お客さまの事業に対する理解や知識はもとより、お客さまとの交流を深めながら、自らの知見を広げる場として活用して欲しいと思っています。



日本ユニシス
品質保証部 プロジェクト管理室
阿保 清吾